

体験活動ボランティア養成研修

～青少年の体験活動を支援するリーダーの養成～

平成 25 年 5 月 18 日（土）～19 日（日）1 泊 2 日



I 事業の背景（必要性）

「子ども・若者ビジョン」（平成 22 年 7 月）では、若者の社会形成・社会参画支援のためにボランティアなどの社会参加活動の推進を図ることとしている。また、中央教育審議会や生涯学習審議会などでは、青少年の現代的課題を解決するために必要なこととして、「生きる力」をはぐくむことや、様々な体験活動の機会を増やすことの必要性を繰り返し述べている。

そうした中、安全でより効果的な体験活動プログラムを実施するため、それを支援するボランティアの育成が求められている。

そこで、地域や小学校などで実施される青少年の体験活動を支援するボランティア活動に求められる知識・技能を習得するとともに、若者たちのボランティア活動への参加意欲を高めることを目的として、本研修を設定した。

II 事業の概要

1. 趣 旨

青少年の体験活動を支援するボランティアに求められる知識・技能を習得するとともに、ボランティア活動の意欲を高める。

2. 参加者

(1) 対象・募集人数

自然体験活動・ボランティア活動に興味・関心のある高校生・大学生、その他 青少年教育・学校教育関係者 30 名

(2) 参加人数 22 人（男性 10 人、女性 12 人）

〈所属別参加人数〉

所 属	人数
行政職員	2 人
大学生	8 人
高校生	5 人
青少年教育施設	3 人
その他	4 人

〈地域別参加人数〉

所 属	静岡県内	静岡県外
行政職員 (2 人)		神奈川県 (2 人)
大学生 (8 人)	御殿場市・富士市・富士宮市・静岡市 (6 人)	東京都・茨城県 (2 人)
高校生 (5 人)	御殿場市・沼津市・三島市 (3 人)	埼玉県 (2 人)
青少年教育施設 (3 人)	御殿場市・沼津市・三島市 (3 人)	
その他 (4)	御殿場市・伊豆市 (2 人)	埼玉県・福島県 (2 人)

(3) 広報の方法

①募集チラシ・ポスターの作成

②近県教育学部・社会福祉学部系大学ならびに、近隣大学ボランティアサークル団体へ送付、掲示依頼

③静岡県内市町村教育委員会，駿東地区高等学校へ送付

④地元新聞社に掲載依頼

3. 日 程

18日 (土)	10:15	10:25	12:25	14:00	15:30	16:00	20:00
		開講式 オリエンテーション	ボランティアの意義 リーダーの役割と心構え	昼食	子どもとのかかわり方 【レクリエーション】	移動	体験活動の指導法・技術 【野外炊事】
19日 (日)	7:00	9:00	12:00	13:00	15:00	15:30	
	清掃	朝食	安全管理と 応急処置	昼食	子どもの成長と 体験活動	ガイダンス 閉講式	(解散)

4. 内 容

(1) 「ボランティア活動の意義 ～リーダーの役割と心構え～」

講師：国立中央青少年交流の家 法人ボランティア 河原塚 仁美 氏

「どんなきっかけで?」「何でボランティア活動をしているの?」「どんな実践をしているの?」といった内容について、具体的な実践や写真を交えながら講義を受けた。また、その後のグループワークでは、「ボランティア活動で大切にしたいこと」について考えた。ボランティア活動の実践経験のある人も未経験の人も、自分が目指すボランティア活動の姿をイメージできる場となった。



【レクリエーション指導の様子】

(2) 「体験活動の指導法・技術」(講義・演習)

講師：国立中央青少年交流の家 企画指導専門職

① 「子どもとのかかわり方」

～レクリエーション指導を通して～

小学生1～6年生でも楽しめるものや、ゲームをしながら集団のルール作りに役立つものを中心に、体験を通してレクリエーションの楽しさを味わうとともに、「どういうときに楽しく感じるか、あまり楽しくないのか」について意見を出し合い、子どもとの接し方について考えた。

② 「野外炊事」

炊事の前に、活動場所や道具を実際に目で確かめながら、予想される危険について意見を出し合った。また、ウォータータンクを使って、限られた量の水でカレーを作る場を設定し、防災についての意識付けも図った。

(3) 「安全管理と応急処置」(講義・実習)

講師：フジ虎ノ門病院 看護部長 渡邊 みゆき 氏

国立中央青少年交流の家 企画指導専門職

安全管理について基礎的な知識を学んだ後、前日の野外炊事の際に挙げられたリスクを低くするための手立てについて、グループで検討した。

応急処置の実技では、野外活動で起こりやすい傷病を中心に指導を受けた。野外活動だけでなく、普段の生活にも活かすことができる内容もあり、実習を通して、応急



【応急処置実習の様子】

処置の知識や技術を身につけることができた。

(4) 「指導者の役割と心構え」(講義)

講師：NPO 法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議

代表理事 重 政子 氏

子どもたちを取り巻く環境や求められている資質・能力について講義を受けた。ガールスカウト等の実践を交えた話の中で、体験活動の重要性とその効果について理解を深めることができた。また、受講者同士のよい所を見つける活動などを通して、子どもと接する上で大切にしていきたいことも学んだ。

5. 評価

(1) 評価の方法

参加者全員にアンケートの実施

(2) 結果

①事業全体をとおしての満足度

満足・・・・・・・・・・・・・・・・18人(82%)

やや満足・・・・・・・・・・・・4人(18%)

②自由記述

- ・ ボランティア活動の大切さや素晴らしさを知ることができた。
- ・ 普段できない体験をし、勉強になった。これからのボランティア活動は楽しくできそうと思った。
- ・ 多くの人とコミュニケーションがとれた。新しい仲間ができて、とてもよかった。
- ・ 研修全体を通して、これからの活動のヒントを得ることができた。
- ・ ウォータータンクを使った野外炊事では、「意外と少ない水でもカレーが作れる」ということが分かった。



【活動を通して仲間づくり】

Ⅲ 事業の企画と運営

1. 企画のポイント

(1) 参加対象者を想定した講義・実習内容の設定

- ① 主に小学生対象の事業でボランティア活動をする際に必要な知識・技能を身につける研修として位置づけ、講義や実習の内容を工夫した。レクリエーションの内容として、難しい課題解決ゲームを多く取り入れるのではなく、小学生1～6年生でも楽しめるものや、ゲームをしながら集団のルール作りに役立つものを中心に取り入れた。また、野外炊事では、実際に小学生が行う場面を想定し、炊実習に入る前に自分の目で確認をしながら予想される危険の確認を行った。
- ② ボランティア活動の意義の講義では、実際に交流の家で活動する法人ボランティアを講師に招き、より実践に即した話を聞くことで、ボランティア活動に対するイメージを描いたり、これからボランティア活動に積極的に参加してみたいと感じられるようにしたりした。
- ③ 「ボランティア活動の意義」「子どもの成長と体験活動」を担当する講師の方に、“これからボランティア活動に積極的に取り組もうとする意欲付け”ができる内容になるよう講義の構成等について事前に打ち合わせをした。

(2) 防災の視点から

避難所や野外での活動を想定し、野外炊事ではウォータータンクを用意して、限られた量の水を使ってカレーを作る場を設定した。

2. 運営のポイント

(1) 職員の姿勢（ロールモデルとなる）

- ① 交流の家職員がロールモデルとなり、気持ちのよいあいさつや楽しく活動できる場の雰囲気作りを心掛けた。
- ② ボランティアに求められるものとして、「参加者の成長を促す声掛け・接し方」「安全に活動するための支援」を挙げ、受講者に意識して声掛けをした。

(2) 今後のボランティア活動への意欲付けにつながる手立て

- ① 年間の教育事業を示し、研修最後に今後参加してみたい事業について、アンケートをとるようにした。
- ② グループワークを取り入れ、ボランティア活動経験者と未経験者の間で情報共有できるようにした。「ボランティア活動の意義」の講義では、法人ボランティアの話聞いた後に、それぞれがボランティア活動に必要なことを考え、模造紙にまとめる活動を行った。

3. 成果と課題

(1) 成果

- ① 新たに法人ボランティア登録者が10名あった。今後のボランティア活動に対する意欲付けができた。
- ② 研修最初にボランティア経験者(法人ボランティア)による講義を設定したことで、受講者が親しみを感じながら話を聞くことができた。
- ③ 子どもの現状をふまえた講義や実践に即した応急処置の実習は、専門性が高く、とても好評であった。

(2) 課題

- ① 研修実施時期については、対象となる高校生や大学生が参加しやすい時期かどうか情報を集め、再度、検討していく必要がある。
- ② ボランティアの養成と教育事業への参加（実践の場）をリンクさせた研修プログラムを立案していく必要がある。

担当：柴田勝好，望月 奏，齋藤勝利